

協議会ニュース

68号

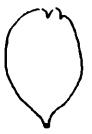
愛知県自然観察指導員連絡協議会 1998.5



ヤマザクラ



カスミザクラ



オシマザクラ

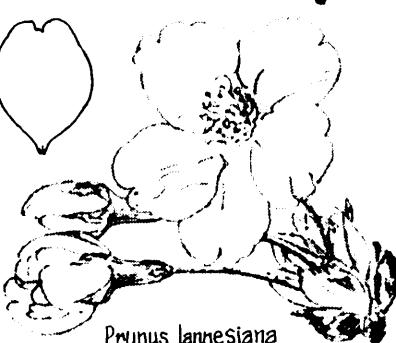
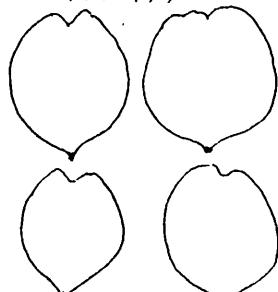


北国の春の
ように一斉
に咲いた

今年のサクラ。ヤマザクラ、オ
シマザクラ、オオヤマザクラなどを
しっかり覚えようと毎日園内をと
びまわりました。それにしてもサクラの花弁で
どうしてこんなに丸くしているんでしょうか…→



オオヤマザクラ



Prunus lannesiana
var speciosa

イメージにあるサクラはもっとシャープな
のに… ⑤

街中の自然観察

(都市公園と都市河川・平成9年度研究会の結果から)

昨年、「街中の自然観察指導方法」をテーマとして、7月12日に都市公園（鶴舞公園・名古屋市昭和区）、9月23日に都市河川（山崎川・名古屋市瑞穂区）の2回の研究会を実施しました。

自然観察会の指導では、どうしても名前や対象となる生物に関する知識を披露することになりがちなので、テーマが少ない街中で言えば、内容の少なさを指導方法の工夫で補わざるを得ないのではないかというねらいで行ってみたものです。

しかし、実際には研究会とといっても、普通の観察会の下見のような形で、集まった会

員がどんなテーマがあるかについて述べあつただけでした。どうも進行を務めた事務局（佐藤）が皆さんの知恵をうまく引き出せなかつたことと、環境問題に対する関心が強かつたためにねらいどは違つた結果になつてしまつたようです。

兎も角、2回の研究会の結果をもとに、都市公園と都市河川では、どのようなテーマで観察指導ができるか次にまとめてみました。内容はまだ不十分ですし、こうした試みは一度で済むものでもないので、機会があればまた再検討したいとも思います。皆さんのご意見をお待ちしています。



1 都市公園での観察

[自然の仕組み等の観察]

街中の公園と行っても結構いろいろな植物があるものです。大きな公園なら植えてある樹木も多く、中には身近に見られないものもあり、小さな公園でも数種類の樹木は植わっています。一つひとつの樹木を丁寧に観察するには、雑木林などより樹木の少ない場所の方が参加者の気持ちも集中できてかえってやりやすいと思われます。樹皮や枝ぶり・葉の付き方の特徴、花・葉・芽などの詳しい観察がじっくりできます。また、公園には意外に多くの雑草やヤブガラシやヘクソカズラなどのつる植物が生えています。樹木と同様にそうした植物をじっくり見てみると良い場所です。どんな植物でも、じっくり観察してみると、案外知らなかったことが多くあるもので、参加者にそのことを気が付いてもら



えれば観察会の目的は半ば達したと云えます。ゆっくりした観察会として、スケッチを探り入れたり、図鑑と首っぴきの観察会にすると効果的でしょう。

さらに、草本類が踏みつけ・日照・公園の管理などによってどのような影響を受けているかなどの観察もしやすいでしょう。生えている植物が多くないほうが、環境と植物の生育状況との関係の初步的な観察には向いていふともいえましょう。いつ草刈りがなされたかわかっていると、その後の雑草の消長が種類毎にどうなるかなど観察できます。

草地があれば、夏頃からはバッタやコオロギなどの昆虫もたくさん見られます。種類が限られているだけに、下見で名前や特徴を覚えて、当日は前から知っていたかのように説明することもできるでしょう。アリ、ヤマトシジミ・アゲハチョウなどの蝶、ハナアブな

どの昆虫はよく観察できますし、木の幹のヒロヘリアオイラガの歯、葉の食べ跡、虫こぶやカイガラムシなども見つかるでしょう。そうした昆虫がなぜ街中でも生活できるか、害虫化するのは何故か、参加者と共に考えてみることもできます。

野鳥も季節によってはいろいろなものが見られます。鶴舞公園でも渡りの時期にはコマドリやサンコウチョウが確認されています。公園では野鳥が見やすいため、どんな行動をしているかなどがゆっくり観察できるかもしれません。

〔環境を探る観察〕

都市公園は雨や風の影響などを見るに向いています。降雨の後ならば、雨によってどの位土が流されるものか観察できますし、長い間に土の高さがどのように減ったかは樹木の根上がりや工作物の地面との接し方などが参考となるでしょう。その地域でどんな風がよく吹くかは、樹木の枝ぶりで判断できることがあります（NACS-J「指標生物」）

環境指標生物の状況を調べることも考えられます。タンポポやクモなどがどのようにすみわけているかを、公園内の環境の違いとと

もに見てまわることや、複数の公園が見られれば、生物の状況から各公園の環境も判断できるでしょう。

〔都市公園のあり方を探る〕

公園周辺の地図に公園・緑地や樹林地の状況を書き込んで、公園の配置がどうか参加者と共に考えてみることもできます。また、公園には限りませんが、古い地図（国土地理院に申し込むと手に入る）を渡して、街並み・農地・川などの状況が昔と今でどのように変化した比較すると面白いです。ゴミなども有効な観察材料になります。

今回の都市公園での観察ポイントをまとめると下表のようになります。その後に「公園の自然度調べ」を考えてみました。もともと街中にある場所ですから豊かな自然であるはずはないでしょうが、その公園がどの位自然味をもっているか、生物などに配慮しているかどうかを比較できないかと思ったからです。一つの例として作ってみましたが、公園の種類や規模によっても内容を変える必要はあるでしょう。実際にやっていないので評点はわかりませんが、どうでしょうか。

都市公園での観察（目的と指導ポイント）



1 自然の仕組みの観察

① 個々の植物の観察

- ・植物の形態……一般的な自然観察と同様な内容で（花・実等の観察、冬芽、樹幹・樹形）

② 植物の生育状況

- ・ふみつけ・日照・公園管理（草刈）等と植物の生育状況との関係

③ 街に強い植物とは

- ・雑草として生えている植物の特徴（生活形・生育形等）を考える。帰化植物の割合。

④ 動物の生息状況

- ・どんな虫がいるか……その生活を考える（なぜその虫がいるか、肉食のものはいるか）

- ・どんな野鳥がいるか……その生活を考える。渡り鳥・冬鳥等の状況。

2 地域の環境を探る

① 雨水の流れ

- ・土流れた状況（木の根の現れ方、工作物などから）・舗装と水管等

② 偏形樹と風

- ・イチョウと初夏の風の方向等。ビル風等の影響。

③ 樹木の活力度など

- ・樹勢の劣った木の有無やその種類。その原因の推測。

④ 指標生物の観察

- ・公園内の環境の違いと指標生物の状況（タンポポ等）。他の公園との比較。

3 都市公園のあり方を探る

① 地域の緑地・公園の配置及び面積

- ・対象地周辺の地図に、都市公園・緑地を書き込んだものを渡して、参加者の意見を聞く
(EX. どの位の距離なら行く気がするか。林の機能と分布状況等)

② 古地図と比較する

- ・公園となった背景、歴史との係わり等

③ 公園の機能について考える

- ・公園に入ってくるもの、出ていくもの……機能について考えるきっかけとする
(入ってくるもの：野鳥、熱気、汚れた空気、騒音。出していくもの：湿気、虫)
- ・木の葉の汚れ調べ（ティッシュペーパー等で葉を拭いてみる。）

④ どんな公園がよいか

- ・利用者の観察（公園がどのように使われているか）。参加者の考えを聞く。

⑤ 公園の施設を考える

- ・いらない施設はないか（景観から、利用から）
- ・景観的にはどうか（色や形、看板の様子）
- ・溝などの形、舗装した部分の割合、森の管理（落葉の状況）……生き物にやさしいか

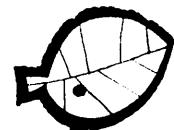
⑥ ゴミを考える

- ・どんなゴミがあるか……どんな場所にゴミが多いか、ゴミから公園の利用形態・利用者の肩を見る
- ・ゴミが生物に与える影響は？……カラス、ハチ類、ゴミムシ、のら犬
(ゴミに来ている虫は何か。ゴミの下の植物はどうか等)
- ・ゴミをなくすには？

3 都市公園の自然度調べ（自然味のある公園かどうかの評価）

[評価の例] 各1~3点

- ・面積はどうか（歩いて横切るのに：15分以上・5分以上・5分以下）
- ・公園の中で森となっている割合：2/3以上・1/3以上・1/3以下
- ・植えてある木の種類：ほとんどこの地域の木・他の地域の木もややある・他の地域が主。
- ・昆虫の種類：チョウ・トンボ・甲虫が5種類以上・5種類以下・いない
(留鳥以外の野鳥がいるか：3種類以上・1種類・いない) ……季節により
- ・公園の施設は景観的にどうか：大変好ましい・おおむね好ましい・気にいらない
- ・ゴミは多いか：ほとんどない・所々にある・よく目立つ



2 都市河川での観察

〔自然の仕組み等の観察〕

そこに生育する動植物の生態的な観察は都市公園などと同じでしょう。水に縁のある生物が多くなるのが特徴になる程度と思われます。また、水生生物の観察はできますが、都市河川となれば他の場所と同じような楽しい観察にはならないかもしれません。

〔川の環境と機能を探る〕

都市公園はもとは森や史跡などであったりしますが、目的は住民の憩いの場所として作られた場所です。それに対して、都市河川はもともとあった川が市街地等に取り囲まれてしまい、好むと好まざるとに係わらず都市の一部になってしまったものです。それだけに、河川は都市化の影響をはっきり受けたものとして環境を考えたり、自然の機能を考えたりするには良い材料でしょう。

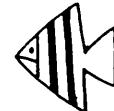
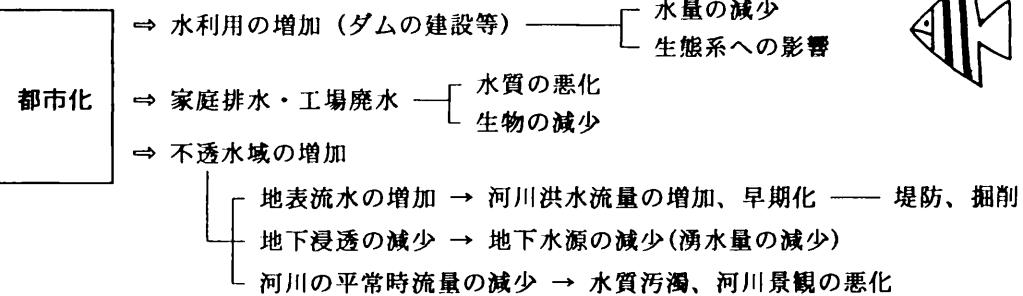
都市化の河川への影響を概略まとめると下表のようになります。河川の環境を観察する着眼点もここにある項目となるでしょうが、この川が護岸で囲まれているのはこういう理由ですと説明するだけではあまり良い方法とはいえないですから、質問の仕方や観察方法には何か工夫が必要となってきます。当日はこうした面の意見はあまり出ませんでしたが、少し例をあげてみましょう。

地域の不透水域の増加と河川流量の関係の場合は、普通河川堤防は周辺の景色が見やすいことを利用して、この地域に大雨が降ったら水はどのように流れるか考え、それを森や水田の多い場所との違いを想像します。さらに、大雨の時の水位がどの位のものか、ゴミの付着や草の生え方等から判断して、平常の水量に比べて洪水時の水量がかなり多くなることやその原因が観察できます。

また、堤防の法面などをどうするとよいかなども私がよく出す問題です。コンクリートで張ってしまう、芝生地にする、草地のまま置いて時々草刈りをする、何もしないで放置する、のどれが最もよいか聞いてみます。芝生がよいという答えもよくありますが、いろいろな植物や動物が見られ、散歩などに楽しい場所とするには、種類の多い草地が最もよく、そのためには放置するのはあまり良い方法ではないことに導きます。自然を良い状態に置くためにはある程度経費や人力がいることを理解してもらうのです。

ただ、こうした環境を考える観察では、指導員の意見を押しつけるのではなく、参加者が観察を通して自分で理解することが大切です。また、行政の河川管理の担当者や河川工学に詳しい人を呼んで、河川の管理について話を聞くのも有益でしょう。この研究会の後

◎ 都市化の河川への影響



◎ 都市河川の形

平常水位と洪水水位の差が大きく、川の容量を増やすため川岸は急傾斜となり、深い川の床に汚れた少ない水が流れる形が一般的になります。この川の形を維持するため、両岸はコンクリートやブロック護岸に包まれます。

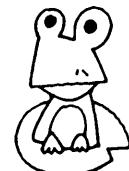
に加藤寿芽さんからお送りいただいた河川の観察法を最後につけました。こうした河川管理の方法を踏まえた見方は私達のあまり知らない分野です。

河川の自然度調査は、観察会などで時に使われる方法ですが、現在のものは川の上流から下流までを同じように評価するもので、どんなにうまく管理されていても、都市近くの

川では良い結果は出ないはずです。そこで、試しに川の下流域だけを対象としたものに変えてみました。まだ十分検討されたものではありませんが、下流域の河川又は都市の河川としてはどういうのが好ましいか判断するには、都市公園でも同じですが、目的に合ったものを作っていく必要があります。

《川の自然度調査－下流－》

項目	3点	2点	1点	0点	○○川
川の周囲の様子	所々に森や公園がある	樹木がよく見られる	草地か農地がある	川岸近くまで建物がある	
流れの様子	広い川原や中洲がある	川原はあるが中洲はない	狭い川原はある	川原がない	
川岸の様子	樹木が川近くまである	草がよく茂っている	一部コンクリート護岸	全部コンクリート護岸	
親水性	子供が川で遊ぶのによい	川には近付ける	近付きにくいが景色はよい	川に好感が持てない	
川原の鳥	鳥の種類が多い	サギなどがいるだけ	カラスやスズメだけ	鳥はほとんどいない	
川原の植物	ヤナギなどたくさんある植物	ヨシ・オギなどがある	帰化植物などの草がある	草はほとんどない	
水の汚れ	水は澄んでいて魚が見える	割合きれい。コイ・フナ	やや濁る。サカマキガイ	非常に濁る・底は黒い泥	
・17点以上：良好　・12点以上：やや良好 ・7点以上：やや不良　・6点以下：絶望的				合計	



河川(都市)の観察法

（加藤寿芽さん作成）

- 1 どんな河川にしたいか
 - a 安全で暮らしに溶け込む川に
 - b 身近な自然との触れ合いの場づくり
 - c 豊かな自然環境を確保する川づくり
 - d 街とともに文化を生み出す川づくり
 - e 水辺を軸とした交流ネットワークづくり
- 2 河川の観察のポイント
 - a 水面から眺める(仰角景)
 - b 背の高さ(水上景)
 - c 橋から上・下流(流軸景)
 - d 天端から(対岸景)
 - e 鳥になって(俯瞰景)
- 3 護岸を見るポイント
 - a 護岸の形：平面形状(曲線・直線・違和感)、横断面(左右対称・不対称・単調)、石積み(柳枝工・蛇籠工・切石積み・玉石積み・河原石)
 - b 護岸の大きさ：高さ(小さく・水面との比高)、勾配(緩・急)、長さ、高水護岸の見栄え
 - c 護岸の素材：素材の大きさ、素材の表情(豊か)、明度(周囲の風景)、模様(絵・模様を描かない)
- 4 調査方法の基本
 - a 河口～上流まで歩いて調査
 - b 写真・スケッチ・地図で記録
 - c 地域の様子を調査する
=多自然型川づくりを考えよう=

ツバメの巣調査結果

《平成9年度環境庁調査》

（この文書は、ツバメの巣調査結果についての報告書です。）

平成9年度に環境庁が主催したツバメの巣調査に協議会も協力することとしましたが、寄せられた調査結果は21件で、県下の概況を知るにはあまりにも少ない結果でした。

まとめる気ものらぬまま、つい1年を経過して、今年のツバメの飛翔が各地で見られるようになり、あわてて整理することとなりました。結果をお寄せいただいた方には申し訳ないことをしました。

報告のあったうち、イワツバメとコシアカツバメが各2件あり、残りの17件がツバメでした。

ツバメの調査結果の概要は、下の3つの表のとおりです。調査地域は表1のとおりで、尾張部の一部と豊橋周辺に片寄りました。

表2は、設置されていた地域の状況で、商店が最も多く、1戸建ての住宅にも設置されています。公共建物は幼稚園・学校・体育館で、大型店舗はスーパーとガソリンスタンドです。なお、これ以外に工場の作業場が1件あります。

表3は設置した場所で、ほとんどが軒や庇

を利用し、ざらざらの壁に付ける例が最も多く、電灯や梁も結構利用されています。(板)とあるのはその家の人が付けた巣用の板で、1件ありました。この他、外から見えるかどうかでは、見えるが9件、あまり見えないが8件でした。また、設置の高さは1階が14件、2階が3件となっていました。

イワツバメは、春日井市で高層の集合住宅の外壁、豊川市で大きな川の橋の下面にありました。コシアカツバメは、春日井市の中層集合住宅の階段室と、豊明市の住宅地にある学校の庇の下に設けられたものでした。

今回の調査で、イワツバメとコシアカツバメの生息分布状況が、概略でもわかってくれば、それを基に情報を集めて、徐々にでもはつきりさせていければなあという気もあったのですが、今後の課題となりました。

ツバメ類の巣は調査しやすいので、自然観察会の参加者などにも呼びかけて実施するのによいテーマだと思われます。以前、富山県では学校の生徒を使って何年か調査が続けられたこともあります。

表1 調査地域

場所	昭和区	中川区	港区	日進市	長久手	尾張旭	春日井	豊橋市	豊川市
件数	1	1	1	1	2	3	3	3	2

表2 設置されていた環境

	商店	住宅	集合住宅	公共建物	大型店舗
商店街	3		1		2
住宅地	3	2		2	
農村		2		1	
計	6	4	1	3	2

表3 設置した場所

	外壁	室内	軒・庇	ざらざらの壁	つるつるの壁	電に乗る	梁等(板)
商店街			6	3	1	2	
住宅地		1	6	3	1	1	2
農村	1		3	2		1	1
計	1	1	15	8	2	4	3

雲と天気の話（その一）

加藤寿芽（知多支部）

最近の新聞天気図、テレビの天気解説。小学校理科、中学校理科第二分野の天気についても、気象衛星からの写真、画像が利用されています。このように、地球規模の雲の動きなどが、小学校の頃から学習され、慣れ親しんでいる事は、嬉しい限りです。

私が、雲に関心を持つようになったのは、教師になってからです。最初は、ボックスカメラで、写す相手も無く、空に浮かんでいる雲を撮りました。人ですと、もっと美人のはずだと、色は白いのだがとか聞こえてきますが、雲は文句も言わず、黙々と流れていきます。また、モデル料を払う必要もありません。

小学校から中学校へ勤めが変わり、教科書にも雲の写真が出ていました。その雲は、大阪とか東京付近が多く載っていました。よしそれならば、名古屋付近はどうだろうか。観察・記録をとろうと決心しました。それでも、唯バチバチと写し、アルバムに整理しておくだけでした。（昭和40年より）

その頃、書店で伊藤洋三氏の「雲の生態」という本を見つけました。欲しくて欲しくてウロウロしましたが、値段が当時の小使銭で買えない位の本でした。ボーナスまで待ち、購入できた時の嬉しさ。また、山本三郎著作「登山者のための気象学」等々と気象に関する本を購入しました。また、日本気象協会会員となり、学問的傾向も握るよう努力しました。

オリンパスペンWを購入しました。理由は36枚撮りフィルムで75枚のプリントができるので、経済的だったからです。当時は、勿論白黒フィルムで、カラーフィルムはない時代でした。同僚から現像位は自分でしたらの忠

告がありましたが、D P屋に出しており、多少出費はかかりました。

カメラにも赤、黄、オレンジのフィルターを買い、利用しました。フィルターを使わないといと、空は明るすぎて、白い雲などははっきりと出ていません。光の量をうんと減量して撮ると、空は暗い感じとなり、雲がきれいに出てくるのです。小型のカメラですし、枚数も多く撮れるし、雲の時間的連続的変化にも対応ができます。今のカメラの様に日付・時刻付きではないので、メモ帳に日付・曜日・時刻・天気・方角・シャッタースピード・f値・絞り等を記録し、メモ帳の左ページには日付、時刻別に出現した雲の様子を記録しました。新聞天気図（日刊・夕刊）を切り抜き帳に整理したり、アルバムには雲のプリント一枚に、当日と前日の天気図を貼付したりしました。

カメラは、何時でも携帯していて、入学式受付・授業中・通勤中・修学旅行・遠足時・職員旅行・体育祭・家族旅行中でも撮っていたので、目はカメレオン状態でした。

山本三郎氏の本に『観天望氣』『気象学は雲に始まり雲に終る』という言葉があり、小生もいつも心がけて生活するようにしていました。前記の気象衛星からの画像を見たり、利用するのも大切ですが、気象衛星は上空から広範囲の雲の状態を撮ったもので、私達が日常見ている雲は、地上から見たものです。雲形十種分類も地上から観察して決められた分類です。私たちは大気の底で生活していますので、今でも観天望氣（大空をぐるっと見渡そう）をお勧めします。メモ帳を持って、落ち着いて観天望氣したいものですね。

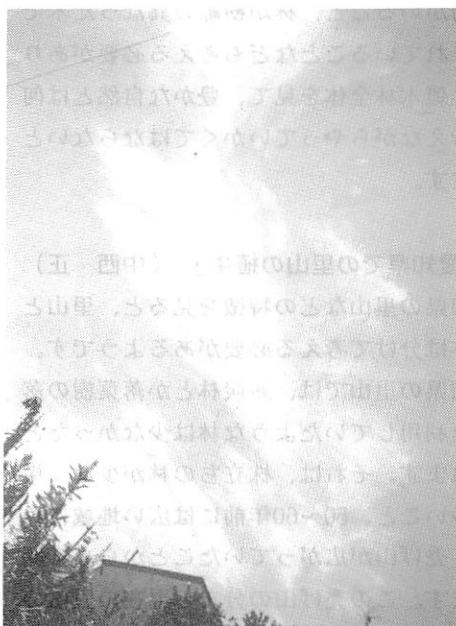
昭和45年に「気象の研究・第一集」として

小冊子ですが、自費出版しました。フィルム約1万枚から選んだものと、克明に記したメモ帳から本を作りました。第二集は天気図を利用した「気圧配置」（前線・気団・低気圧・高気圧・台風等）と雲の様子の相関関係を調べたものを出版しました。最近は、自然観察指導員として活躍しているため、関心の対象が拡がり、雲の研究が減ってしまった。

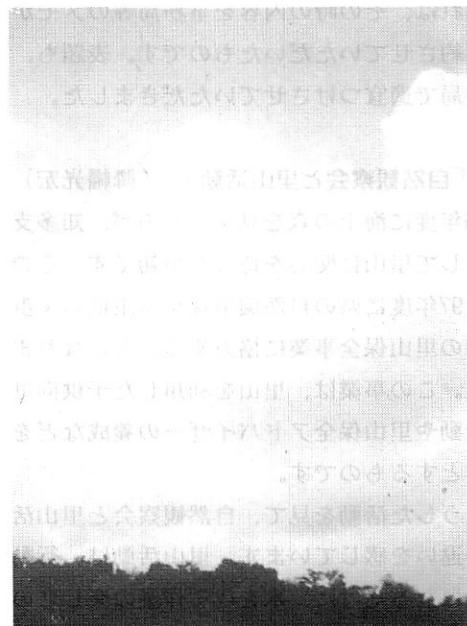
天空をくるっと見渡して、雲を観察してい

ますと、その形は千差万別で、グループ毎に分類できるのかなと思いますが、色、高さ、形から考察すると、3つのグループにまとめることができます。

青空にサッと刷毛で描いた様な雲（巻雲系）と、大空に幕を広げた様な雲（層雲系）、かたまり状や立った様な雲（積雲系）にまとめるすることができます。（英国人ハウード氏の分類法）



巻雲系（シラス Cirrus）



積雲系（キュムラス Cumulus）



層雲系（ストレイタス Stratus）



里山の管理について

《総会後のミニ・シンポから》

総会の折りに、岐阜大学の林先生の里山についての講演がありましたが、その後に、ミニシンポとして、里山をテーマに3人の会員にお話ををお願いしました。

これは、その時の内容を事務局等のメモから要約させていただいたものです。表題も、事務局で適宜つけさせていただきました。

◆ 「自然観察会と里山活動」（降幡光宏）

96年度に海上の森を見学したのが、知多支部として里山に関心を持った最初です。その後、97年度に県の自然環境保全室主催の美浜町での里山保全事業に協力することになりました。この事業は、里山を利用した子供向けの活動や里山保全アドバイザーの養成などを内容とするものです。

こうした活動を見て、自然観察会と里山活動の違いを感じています。里山活動は、行動が先になるだけに、木を伐る作業の楽しさのためつい何でも伐ってしまい、つる植物の一部など残してもよいものまで伐ってしまうことになります。しかし、観察会と異なって、聞くだけに終わらせらず、実際に参加するという良さもあります。そこで、木を実際に伐る前に、里山の自然の仕組みを、自然観察を通して理解してもらうことが有効であると思われます。

◆ 「里山の管理方法」（篠田陽作）

97年度は、名古屋市の相生山緑地での雑木林インストラクター養成講座を行いました。自分が担当したのは、トンボ池づくり、森のエコアップ作戦、フィールドマップづくり、蕎麦づくり、小動物調査などです。生き物の生態や農村の暮らし的なことも考える必要が

あるという考え方でやってきました。

雑木林の管理を考えるとき、生物の多様性を確保し、豊かな自然をつくることが最も大切です。そのためには、枯れ木もそれに関わる生き物がいること、林が樹齢の異なった木で構成されていることなども考える必要があります。雑木林全体を見て、豊かな自然とは何かを考えながらやっていかなくてはならないと思います。

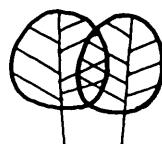
◆ 「愛知県での里山の植生」（中西 正）

愛知県の里山などの特徴を見ると、里山と雑木林は分けて考える必要があるようです。

愛知県の里山では、薪炭林とか落葉樹の落ち葉を利用していったような林は少なかったと思われます。それは、株立ちの林が少なく単木が多いこと、50~60年前には広い地域にわたって禿げ山が広がっていたことからも推測できます。この禿げ山の分布と現在の里山の分布は一致しています。禿げ山は、治山事業によって今の姿になってきたもので、コナラ林などの雑木林は、時間的にも新しいものです。

愛知池周辺のコナラ林をみても、マツ林が衰退した後で生えたもので、コナラ林として人間の伐採を受けた様子はありません。豊橋市などでも、古い地図を見ると、アカマツ林が多く、今ではそれがコナラ林に変わっているものです。

このようにみると、県内の雑木林の多くは歴史的に里山として管理してきたものではないようと思われます。



築水の森の魅力

樋口祐子(尾張支部)

みなさま、はじめまして。去年の10月に自然観察指導員講習会を受講し、協議会に入会した樋口です。どうぞよろしくお願ひします。

自然観察指導員として仲間に入れていただききっかけに、何か役に立つことはないかと思っていたのですが、以前協議会ニュースで、「毎回、原稿欠乏症になっています。」という編集局の近藤さんの編集後記を見て、少しでもお役に立てばと筆を走らせていました。

私は、尾張支部に入会したのですが、協議会ニュースや支部通信を読ませていただき、「みなさん、いろいろ活発に、活動されているんだなあ。」とひどく感心しているところです。

今日は、私がフィールドとしている春日井市の少年自然の家を中心とする築水の森の魅力について紹介したいと思います。

春日井市の東、岐阜県境の弥勒山(標高437m)の麓に広がる春日井東部丘陵は愛知高原国定公園にも指定され、豊かな自然に恵まれています。そして、わが愛する築水の森はその一部に位置し、市内に残された数少ない里山として、動植物や昆虫の観察にはもってこいの場所であり、また市民の憩いの場として、日曜日にはゆったりと散策を楽しむ人の姿が多く見られます。

わざわざ車や電車に乗って遠くへ出かけなくとも、身近にこんなにいい所があるのです。

ここ築水の森には四季折々の美しさや感動があるので、次の文は、春日井市の広報(3月1日号)に私が築水の森を紹介したものです。

『春、築水の森がざわめいてきました。

マンサクの黄色い花が、そよそよと風に舞っています。それを追いかけるように、シデコブシの白い花が咲き始めます。

ふと足元を見ると、ショウジョウバカマやスマレ・ミズバショウ・チゴユリ・ハルリンドウ

が順々にきれいな花を咲かせます。

春の昆虫たちもにぎやかですよ。花々に誘われて、春の女神ギフチョウのおでましです。

はるかかなたには、ノスリやトビが悠々と翼を広げてとんでいます。

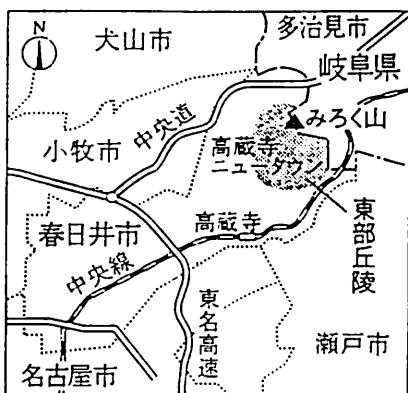
ここ築水の森では春のドラマが始まっています。感動がいっぱい。かわいいリスもいますよ。さあ、会いに出かけましょう、築水の森へ。』

しかし、自然に恵まれたこの地域にも、県や市の開発の手が入り、木々がぱっさりと切られたり、犬を連れた人たちが堂々と散歩したり、また外来植物が随分増えたりしています。

築水の森について、詳しくお知りになりたい方は、少年自然の家に私が勝手に“師匠”と仰ぐ自然観察指導員の浅見良平さんが勤務しておりますのでお尋ねください。

毎月、第3日曜日(8月、9月は変更あり)9時に少年自然の家玄関前に集合して、午前中、仲間と歩いています。一度遊びにお越しください。少年自然の家の食堂の200円のコーヒーがとてもおいしいですよ。

では、築水の森でお会いしましょう。



アクセス：高蔵寺駅からJRバス細野線植物園行きか名鉄バス高蔵寺N線植物園行き(土・日曜日と夏休み期間中に運行)「植物園」下車



会員近況

（左）

今年は、東山でサンショウウオが50対以上の産卵をしました。若い親と思われる小卵塊が多く、溝を掘ったり（産卵場所の一つ）、土砂で埋まる池をしゅんせつして、ザリガニを取った効果が出てきたのではないかと思っています。繁殖地は名古屋市が先行取得してくれましたが、理解ある課長が公園事務局から移動して久しいので、公園整備がどう動くか心配です。

東谷山のふもとの愛知用水工事は、三重大の武田明正教授（森林生態）、中田征二中日論説委員らが入った意見聴取会も開かれ、環境に配慮した設計・工法が取られることになりました。

（武田 篤）

自然の移り変わりなどの変化に感動を覚えていました。観察することを学び、これらをまとめることの難しさを感じております。

（林 石根）

蒲池海岸の海浜植物群落が危うい。潮の流れか、知多市の埋立、長良川のせき…。何が原因かわかりませんが、毎年数十センチも砂が寄ります。私の家では天から砂が降る日もあるほどです。

ブロック製造の作業場として、植物がけずられています。その上に多量の砂、近くの住人より砂が多くて困ること。ブルドーザーを汀線へ、植物が全くなくなってしまった部分もあります。

（中井三徳美）

月～金まで仕事と趣味の遊びで、観察会に御無沙汰して申し訳なく思っています。出席できるときは出るつもりです。どうぞよろしくお願いします。

（池田桂子）

観察会を始めて、いろいろな方が来てくれます。まだ3回済んだだけなのに、皆期待して来るのだろうか。人数も少ないし、参加者も初心者なら指導員も初心者でのんびり始めています。一年たったらレポートを出しましょう。人間模様を。

（石井幸子）

自分にはどんな活動ができそうなのかわからないまま日々過ごしています。そんなこともあってなかなか活動に参加できません。平日休みの方がいるとうれしいのですけど。

（本村 健）

協議会ニュースを読むだけの会員になりつつあり、反省。日々の自然観察活動は個人的にも続けていますが…。今さらいうまでもないのですが、生態系的自然観察の大切さを感じています。

（藤原優年）

協議会ニュース毎号楽しく拝読させていただいている。毎号とても役に立ち、元気の出る記事内容ありがとうございます。私にとっては役に立つ団体機関紙の一冊です。ただ協議会の日程等に都合が合わず参加ご協力できないのが残念です。「俳句」は絵画、散文、詩などとともに自然や季節の描写法のひとつ、自然と触れ合う人間の心の豊かさを感じさせます。自然に親しみ、自然に学び、自然に感謝するこころの現れとも思います。俳句などでも豊かさを感じさせ楽しいと思います。

（松井賛一）

観察会への参加は時間がとれなくて参加できない状況です。何年先になるか分かりませんが、再開できる日をじっと待っています。

（清水多恵子）

最近めっきりゆうれい会員ですが、いつか復活したいです。会報をたのしみにしています。

(藤本知重子)

幸田町の図書館で、96年は面ノ木の花、97年は長ノ山湿原の花の写真展を行いました。各回共 400名程の方にご来場頂きました。次回は道端に咲く雑草と呼ばれている花を紹介したいと思っています。

(近藤 守)

中京大学オープンカレッジで、金融ピックパン、税金等について学んでいます。また、5月からの名東生涯学習センター「名東ぐるっと緑地めぐり」講座に申し込みました。堀田さん、浅井さん、朱雀さんなどに教えていただけますので、今からワクワクドキドキしています。自然観察会でお目にかかるのも嬉しいですが、こうした場所で教えて頂くのも新鮮な気がします。

(野々村由紀子)

図 書 の 紹 介

☆写真集「御岳山の自然」

(世界的な自然遺産)

- ・内容：写真集と解説 (A 4 版 P.86)
- ・岐阜県自然環境保全連合編集
- ・価格：2,000円 (送料380円)
- ・申込：小野田三郎 (0577-35-1769)

☆「三河湾・遠州灘産海産蟹類目録」

☆「三河湾・遠州灘産海産貝類目録」

- ・著者：中島徳男 (会員)
(0532-55-5438)
- ・価格：貝類1,800円、蟹類 1,600円
(送料共に310円)

☆「野草のおぼえ方」(上) 1,838円

☆「四季の花撮影」 1,575円

☆「日本のスミレ」 2,039円

- ・著者：猪狩雅史 (会員)
- ・申込先：猪狩雅史(オフス・メイグル)
(0532-55-6080)

☆「渥美半島植物記」 6,300円

☆「豊橋公園の自然」 1,260円

- ・著者：恒川敏雄
- ・申込先：猪狩雅史(オフス・メイグル)
(0532-55-6080)

☆「豊川市史 第十巻 (自然)」

・発行：豊川市 平成10年3月
(B 5 版 P.500 (資料 P.300))

☆「音羽にすむ哺乳類」 (音羽の自然2)

- ・発行：音羽町教育委員会 平成10. 3
(B 5 版 P.25)

☆「瀬戸の名木」

- ・発行：瀬戸市教育委員会 平成9. 3
(B 5 版 P.110)

☆写真集「水といのち」 - 満濃池博物誌 -

(変形 A 4 版 P.120)

- ・編集：雑花塾満濃 (香川県)
(0877-75-0877 藤田)
- ・定価：3,000円

★ ビデオテープ無料貸出

「地球温暖化対策」

- ・内容：温暖化問題、運輸部門の対応、エコドライブ (VHF 22分)
- ・申込先：交通エコロジー・モビリティ (03-3221-7636) 財団

*返送料は借入者負担

事務局から

[行事結果]

★ 協議会総会

〔期日〕平成10年3月22日（日）

〔場所〕産業貿易館（名古屋市中区）

〔出席〕38名

〔議案〕

- 第1号 平成9年度事業実施報告について
- 第2号 平成9年度収支決算について
- 第3号 平成10年度事業計画について
- 第4号 平成10年度収支予算について
- 第5号 協議会規約の変更について

〔結果〕

いずれの議案も可決されました。なお、協議会規約の変更是、事務局が県から離れたことに伴い、「日進市に置く」という原案に対し、「日進市南ヶ丘2丁目18-11に置く」と修正されました。

〔講演会等〕

総会後しばらくコーヒータイムをとって、次に岐阜大学の林先生に「里山の自然について」と題して講演をお願いしました。主に景観的な面から多くのスライドを写しながら説明してくださいました。その後、ミニシンポとして、降幡、篠田、中西の3人の方に里山についての考えを10分位づつ話してもらいました。概要はこの機関誌に掲載しました。終了後、林先生もまじえた10数人が席を変えて懇親会になりました。

「会員からの意見」

会員に葉書を送って、協議会に対する意見を求めたところ次のような意見が寄せられました。ここには、事務局の考えを回答として書きましたが、すぐには解決できないことも多く、今後の課題として、理事会等でも検討しながら対応していきたいと思っています。



〔意見①〕現在の支部の地域が広すぎるため、岡崎地方にいてもほとんどの方にお会いすることができます。支部の中に副支部のような組織を作り、年に何回か会合を持ち、顔を合わせる機会を増やせば、知った方ができて他の行事にも出かける気になるかと思います。

〔回答〕現在の支部は、会員が100名位の頃に定めたもので、会員の増加に伴って支部の事務も大変になってきています。しかし、永年やつてきた支部をここで分けることも難しい面があり、ご意見にあるように支部の中に班を設けるなどして活動し易くすることも考えられます。すぐには無理かもしれません、各支部にも検討をお願いしていきたいと思っています。

〔意見②〕行政に顔を出し、いろいろ要望を述べてくれる指導員も必要だと思います。別に保護運動しなくとも、情報を入れるだけでも大切なことだと思います。

〔回答〕現在、知多支部のように行政の仕事に協力する代わりに、開発等に際して意見も述べているケースや、名古屋支部のように別組織あるいは個人的に行政に係わっているものもあります。ただ、協議会や支部として組織的にこうした活動をするまでには至っていません。一般市民が開発等の情報を得るのはどうしても遅くなりがちで、日頃行政とつながりを持ちながら情報を得ていくことも確かに大切なことです。そのためには、行政に対する日頃の協力も必要でしょうが、普及部局と開発部局が異なるための難しさもあります。当面、こうした問題について意見交換するような機会を設けて検討していきたいと思っています。

〔意見③〕各支部や協議会の観察会の実施結果や参加者の状況等を分析したものなどがあるでしょうか。なければ、5年に1度位は観察会の

状況や問題点などを分析して発表してはどうでしょうか。

〔回答〕毎年観察会の結果を集計、分析しようと思いつつ、事務に追われて延ばしているのはお恥ずかしい次第です。」とりあえず、9年度は年報形式でまとめつつありますので、実施状況だけは近く整理できます。内容の分析等につきましては、必要なことですから普及部会等で行うよう考えていきたいと思っています。

〔意見④〕役員の任期をある程度決めて、後継者を育てるにした方がよいと思います。また、女性の役員がいないのはどうしてでしょうか。十分出来るだけの実力のある方はいっぱいいると思います。

〔回答〕確かにいろいろな人が参画して会を運営した方がマンネリにもならず、いろいろなアイデアも出てきて活動の幅が広がることだと思います。ただ、現在の協議会はあまりに事務的なことを増やし過ぎてしまい、事務量だけでも相当なものになっているため、誰でも手伝える状態ではなくなってきています。いいかげんな仕事で外部から批判されたくないという私(佐藤)の気持ちが会をこのような方向に向けてしまったようです。一時は、事務の分割のために4つの部会に分けたりしましたが、なかなか思うようにいかないものです。当面考えられるのは、私は事務に専念して、会の活動は事業ごとにいろいろな人に任せていくことのようです。そんな方向を考えていきたいと思います。役員等に女性が少ないことは前にも云われまして、改善されておりません。すぐにとはいかないかもしれません、女性を増やすよう努力します。

〔意見⑤〕指導員登録料 1,300円、NACS-Jの会費 5,000円に加えて、協議会会費 3,000円、支部の経費 2,000円が毎年かかりますが、これらはそれぞれ別の経費なのでしょうか。

〔回答〕当初は自然観察指導員とNACS-J会員は別のものというはずでしたが、NACS-Jの事情により会員となることが強制されて

しました。また、愛知県内でも当初は、支部の会費はとっていませんでしたが、活動が活発になるに従って資金が必要になってきたものです。今では、自然観察指導員を続けるだけで毎年1万円を越えるお金を払っており、それに見合うだけのものが協議会等から返っているのか、事務局としてはいつも気にしていることです。協議会の活動を縮小して支部に事業は任せたほうがよいのだろうかなどと時々考えたりします。今のところこうした多重構造をとめる方策は思い浮かびませんが、節約に努めて会費の値上げだけは押さえたいと思っています。せめて、積極的に意見だけでも云って、腹の虫をおさめてください。

〔意見⑥〕素晴らしい機関誌をお送りいただきありがとうございます。役員の方とか新加入の方のお顔を覚えたいとも思いますので、時には写真を載せていただけませんか。

〔回答〕確かにご意見のとおりです。しかし、顔写真を載せるのは気の進まない方もいるでしょうし、機関誌の経費の問題もありますので、行事の時に写真を撮って、それを機関誌に載せるとかいろいろ工夫してみます。

会員異動

【加入】

- ・末岡容子〈尾張支部〉 (052-936-1397)
461-0004 名古屋市東区葵 1-13-6
- ・牧野なおみ〈名古屋支部〉 (052-876-3397)
453-0003 名古屋市緑区黒沢 1-1607

【脱退】

- ・江原則子〈尾張支部〉 転出
- ・加藤丈治〈知多支部〉
- ・中嶋清徳〈名古屋支部〉
- ・吉見 勝〈西三河支部〉 死去
- ・宮本敬之助〈西三河支部〉

【住所変更】

- ・近藤盛英 (052-651-1649)
456-0057 名古屋市熱田区五番町 6-29

行 事 実 内

☆フォローアップ研修会「土壤生物の観察」

期日：平成10年5月30日（土） 13:30～16:30

場所：東山公園（集合：植物園正門前 13:30）

講師：浅井聰司、佐藤国彦

- ・分解者として重要な役割を持つ土壤生物の種類やその見分け方、観察方法等について実際見てみましょう。

☆ 話題の地見学会「21世紀の里山とは」

期日：平成10年5月31日（日） 集合 9:40（第7駐車場）～昼

場所：フォレスタヒルズ・モデル林（トヨタの森）

- ・参加者の住所により集合場所を決めて、自家用車に乗り合わせても行きます。（当日は、モデル林を案内していただく予定です。）
- 参加希望者は佐藤まで —

★問合せ先：いざれも佐藤（☎05617-3-5674）まで

＊自然なにかとアンケート＊

第5回目のアンケートのテーマは、「里山の自然をどう考えますか」です。里山の自然で好きな場所、心配なこと、どう残したらよいかなど、里山に関することなら何でも結構です。

5月31日までに編集事務局（近藤）までご意見等をお寄せくださるようにお願いします。多数のご意見をお待ちしています。

※編集後記※

3月末に下記の所に引っ越し、4月には異動で勤務先が南保健所となり、何かとあわただしい日々を過ごしています。

木々の緑が一年で最も美しい時期を迎えました。ワープロなど放っといて、緑の中でおもいっきり深呼吸したい気分です。

健康に気をつけ、それぞれの場でご活躍下さい。

(近藤)

— 目 次 —

街中での自然観察	1
ツバメの巣調査結果	6
雲と天気の話①	7
里山の自然について	9
築水の森の魅力	10
会員近況	11
図書案内	12
事務局から	13
行事案内等	15

